

大学進学における進路選択プロセス に関する日中比較研究

東北大学大学院教育学研究科
林如玉

背景と問題：日本

- ・ 臨時教育審議会第一次答申（1985）：
「選抜方法や基準の多様化，多元化の推進」，「受験機会の複数化への配慮」
- ・ 中央教育審議会第二次答申（1997）：
「多角的に評価するため，選抜方法の多様化，評価尺度の多元化に一層努める」



入試区分：「一般選抜（一般入試）」

「学校推薦型選抜（推薦入試）」

「総合型選抜（AO入試）」

問題と目的

2019年度 高等教育機関(大学・短大)への進学率	日本	中国
	58.1%	51.6%

共通の重要な課題：進学先となる大学の選択

高校生の合理的な進路選択を支援するため

高校生の進路選択プロセスの実態を解明する

背景と問題：日本

各区分で入学した学生の割合

日本 (調査当時)	割合 (2019年度入試)
一般入試	50.9%
推薦入試	38.4%
AO入試	10.6%

背景と問題：日本

- 第一次答申から37年が経過した現在，日本では多様な高大接続の環境が整備されてきた。（入試区分の多様化）
- 大学

オープンキャンパス

大学先生の出前講義や講演

進学説明会

大学ホームページ

- 高校に，**進路指導**を担当する校務分掌が存在し，高校の**キャリア教育**の一環として，生徒の進路選択を支援する。

背景と問題：中国

- 中国の大学入試：「**高考 (gāokǎo)**」

「千軍万馬過独木橋（千軍万馬が一本の木橋を渡る）」

大学入試における学力検査のみの「一発勝負」が問題視されている状況は日本（臨教審，1985）と同じである。

大学入試制度の多様化は日本ほど進んでいない。多くの受験生にとっては**高考 (gāokǎo)**で高得点を取ることが志望する大学に入学するための**唯一の手段**となっている。

6

背景：日中の大学入試区分

各区分で入学した学生の割合（2019年度）

日本	割合	中国	割合
一般入試	50.9%	全国統一入試	約98%
推薦入試	38.4%	推薦入試	全国で5,000人程度の規模に限定される
AO入試	10.6%	大学の自主募集	一部の大学に募集人員の5%まで

中国の高校には**キャリア教育を担当する組織は存在しない**

7

研究目的

共通	高等教育の大衆化
	大学入試制度に対する「一発勝負」の批判
相違	入試制度の多様化

「多様化」の進み具合が違う日本と中国で，高校生の大学進学における**進路選択行動に異同**が見られるか否かは興味深い。

本研究は，日中両国の高校生を対象に，大学進学における進路選択プロセスに関する質問紙調査を行い，現在の**日中両国の高校生の大学選択行動に関する実態把握**を行うことを目的とする。

方法：質問紙調査

	日本調査	中国調査
調査時期	2019年2月～4月	2019年6～8月
対象者	全国11校の高校生7,700名	中国河南省における6校の高校生419名
回答率	回答数(一部無効回答も含む)は1089で、回答率14.1%	回答数(一部無効回答も含む)は371で、回答率88.5%
調査形式	ウェブ調査(Google form)	ウェブ調査(问卷星)

- ・日中両国で調査対象となった高校各地域の上位から中位レベルの進学校とみなされる高校であり、総体的に見ると、社会的な位置づけには本質的な違いはないと考えてよい。

方法：調査内容

日中での調査内容は同一であることを保証するため、バックトランスレーション法を用いた。

高 校 生 活 の 中 心	①勉強	入 試 区 分 の 選 択	3年生：
			「一般入試」「推薦入試」 「AO入試」「その他」
	②部活		1,2年生：
	③(校外の)自分の興味関心		「まだ決まっていない」

結果：回答者プロフィール

日本・調査の対象とした時期：2018年4月～2019年3月

中国・調査の対象とした時期：2018年9月～2019年7月

		国		合計
		中国	日本	
有効回答		192	1019	
性別	男子	71	440	511
	女子	121	578	699
学年	1年生	48	437	485
	2年生	58	423	481
	3年生	86	159	245

注：無回答は除く

10

結果：「高校生活の中心」

	中国		日本	
	N	%	N	%
勉強	166	86.5	484	47.5
部活	6	3.1	365	35.8
自分の興味関心	20	10.4	169	16.6

方法	項目	結果
「国」x「高校生活の中心」 カイ2乗検定	「勉強」	中国>日本
	「部活」	日本>中国
	「自分の興味関心」	日本>中国
学年ごと カイ2乗検定	「勉強」	中国>日本(全学年)
	「部活」	日本>中国(全学年)

結果：「入試区分の選択」

1,2年生：国x希望入試方式

($\chi^2(4)=31.969, p<.001$)

		希望する入試方式				
		一般入試	推薦入試	AO入試	まだ決まってい ない	その他
中国	度数(%)	80(75.5)	3(2.8)	5(4.7)	8(7.5)	10(9.4)
	調整済み残 差	1.5	-1.7	-0.6	-2.5*	6.1**
日本	度数(%)	585(68.4)	63(7.4)	54(6.3)	145(17)	8(0.9)
	調整済み残 差	-1.5	1.7	0.6	2.5*	-6.1**

*p<.05,
**p<.01

「まだ決まっていない」 日本>中国

13

結果：「入試区分の選択」

3年生分析:国x入試方式

($\chi^2(3)=12.120, p<.01$)

		入試方式			
		一般入試	推薦入試	AO入試 (大学自主募 集)	複合型
中国	度数(%)	34(81.0)	1(2.4)	2(3.4)	5(6.5)
	調整済み残 差	3.2**	-2.9**	-0.9	-0.7
日本	度数(%)	84(53.5)	33(21.0)	14(8.9)	26(24.5)
	調整済み残 差	-3.2**	2.9**	0.9	0.7

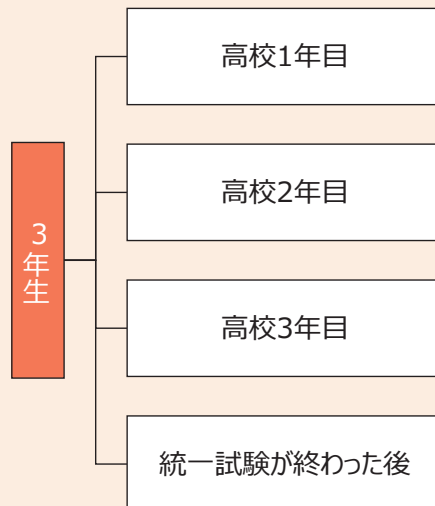
*p<.05,
**p<.01

一般入試 中国>日本
推薦入試 日本>中国

14

方法：調査内容

「志望大学の決定時期」



結果：「志望大学の決定時期」

3年生分析:国x志望大学の決定時期

($\chi^2(3)=127.510, p<.001$)

		志望大学の決定時期			
		高校1年目	高校2年目	高校3年目	統一試験が終わった後
中国	度数(%)	1(2.4)	2(4.8)	6(14.3)	33(78.6)
	調整済み残 差	-1.4	-3.6**	-5**	11.3**
日本	度数(%)	12(8.7)	45(32.6)	80(58.0)	1(0.7)
	調整済み残 差	1.4	3.6**	5**	-11.3**

*p<.05, **p<.01

「統一試験が終わった後」 中国>日本
「高校2年目」「高校3年目」 日本>中国

16

方法・結果：調査内容「一貫性」

「志望大学の一貫性」 3年生

「実際に受験した大学は1~2年生の頃に、受験したいと思っていた大学と同じですか」

国x志望大学 ($\chi^2(1)=12.184, p<.001$)

国と志望大学の一貫性のクロス集計表および調整済み残差 (N=199)

		志望大学の一貫性	
		同じ	違う
中国	度数(%)	5(11.9)	37(88.1)
	調整済み残差	-3.5**	3.5**
日本	度数(%)	64(40.8)	93(59.2)
	調整済み残差	3.5**	-3.5**

*p<.05, **p<.01

「同じ大学を受験した」 日本>中国

まとめ1：学習生活の実態

	高校生活の実態の日中差異	考察
高校生活の中心	「部活」 日本>中国	日本の高校生の活動は中国よりも豊富で、勉強以外にも多種多様な活動を行っている。
入試方式の選択	1,2年生 「まだ決まっていない」	日本の入試方式： 多様 である 中国の入試方式： 一般入試 がほとんど 中国の高校生は1,2年生の時から一般入試以外の入試方式を 選択する余地がない 。
	3年生 「一般入試」	中国>日本 日本の高校生は入試方式に対する 選択権を持っている 。1, 2年生の時はそれを考える時期と位置付けられていると言える。
	3年生 「推薦入試」	日本>中国

18

まとめ1：学習生活の実態

志望大学	高校生活の実態の日中差異	考察
決定時期	3年生 「高校2,3年目」	日本>中国 日本の入試方式： 多様 である 中国の入試方式： 一般入試 がほとんど
	3年生 「統一試験が終わった後」	中国>日本 中国の高校生は1,2年生の時から一般入試以外の入試方式を 選択する余地がない 。
一貫性	3年生 「同じ」	日本>中国 日本の高校生は入試方式に対する 選択権を持っている 。1, 2年生の時はそれを考える時期と位置付けられていると言える。

19

方法：調査内容

「情報収集活動」 学年共通

高校生の大学選択ための情報収集活動を2種類に分けて、1年間の活動頻度について回答を求めた。

対面型情報収集	受信型情報収集
オープンキャンパス	大学ホームページ
大学先生による講演	インターネット
卒業生による講演	大学のパンフレット
キャンパス見学	雑誌や本
進路説明会	

結果：対面型情報収集活動（記述統計）

「対面型情報収集」の4段階評価は、得点が高いほど、該当する対面型情報収集活動に参加する頻度が高い。

日本	N	M	SD
オープンキャンパス	1015	2.00	0.78
大学先生による講演	1006	1.73	0.94
卒業生による講演	1001	1.62	0.81
キャンパス見学	997	1.49	0.74
進路説明会	1006	1.43	0.75

中国	N	M	SD
卒業生による講演	192	1.85	0.88
キャンパス見学	192	1.75	0.95
大学先生による講演	192	1.66	0.94
進路説明会	192	1.52	0.87
オープンキャンパス	192	1.40	0.77

21

結果：「対面型情報収集」（3要因分散分析）

主効果：「学年」(F[2,1166]= 7.008, p<.01)
1次交互作用：「国」×「学年」(F[2,1166]= 18.113, p<.001)

変動因	SS	DF	MS	F
国at 1年生	2.041	1	2.041	8.212**
国at 2年生	1.354	1	1.354	5.451*
国at 3年生	5.381	1	5.381	21.658***
学年at中国	7.264	2	3.632	14.617***
学年at日本	5.089	2	2.545	10.241***
誤差	289.719	1166	0.248	

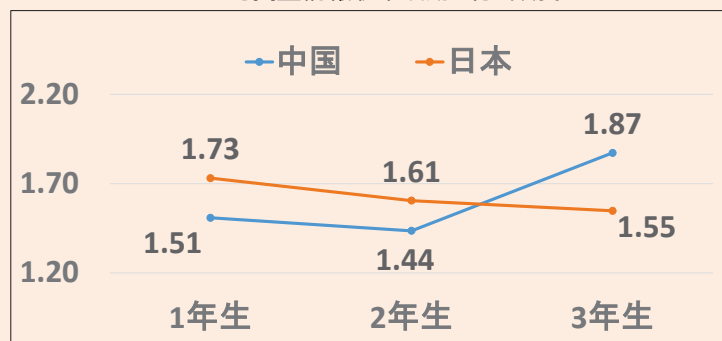
*p<.05 **p<.01 ***p<.001

単純主効果	「対面型情報収集活動」を行う頻度
国	1,2年生：日本>中国 3年生：中国>日本
学年	日本：1年生>2,3年生 中国：3年生>1,2年生

22

結果：対面型情報収集活動（日中比較）

対面型情報収集活動を行う頻度



日本では、1年生は対面型情報収集活動も含めて多様な活動に参加する時間があり、2, 3年生は勉強中心で対面型の活動へ参加する時間がない。中国では、一般に1, 2年生の時には進路に対する意識は希薄である。勉強のみが高校生活の中心になり、進路選択ための情報収集活動を行う余裕がないことが考えられる。

23

結果：受信型情報収集活動（記述統計）

得点が高いほどメディアの利用頻度が高いと解釈される。

日本	N	M	SD
大学ホームページ	1016	2.88	0.82
インターネット	1013	2.61	0.97
大学のパンフレット	1012	2.32	0.95
雑誌や本	1011	2.10	0.91

中国	N	M	SD
インターネット	192	2.79	1.00
大学ホームページ	192	2.16	1.05
大学のパンフレット	192	2.06	0.98
雑誌や本	192	1.89	1.00

24

結果：受信型情報収集活動（日中比較）

主効果：「国」(F[1,1186]= 69.438, p<.001)
 「性別」(F[1,1186]= 38.6315, p<.001),
 「学年」(F[2,1186]= 88.534, p<.001)
 交互作用：「性別」×「学年」(F[1,1186]=3.121, p<.05)

「受信型情報収集活動」を行う頻度				
国の主効果	日本>中国			
性別の単純主効果	2,3年生：女子>男子			
学年の単純主効果	男子：3年生>1,2年生 女子：3年生>2年生>1年生			
変動因	SS	DF	MS	F
性別at 1年生	0.769	1	0.769	2.873
性別at 2年生	2.224	1	2.224	8.305**
性別at 3年生	2.383	1	2.383	8.898**
学年at男子	9.402	2	4.701	17.553***
学年at女子	18.773	2	9.386	35.048***
誤差	317.625	1186	0.268	

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

25

考察：受信型情報収集活動（日中比較）

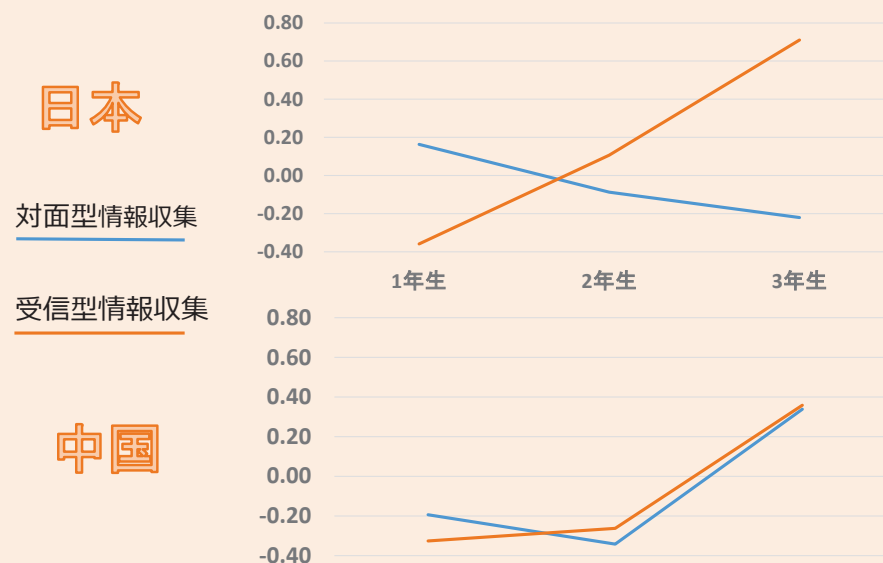
・受信型情報収集活動を行う頻度：

日本>中国

- この結果について、進路選択における意識づけの差が考えられる。日本においては、基本的に学校内の進路指導制度が整備されており、高校生は自分の進路選択に常に高い意識を持つことを教育されている。中国の高校生は進路選択意識より成績への関心意欲が高く、日本の高校生と比べて、進路選択意識が希薄であることが推測される。

26

結果：情報収集活動の行動パターン（日中比較）



27

方法：相談相手

質問：この一年間で、進路について、以下の人に相談したり、話したりしたことがありましたか？

- ① 1回もなかった ② 1~2回ぐらいあった ③ 時々あった ④ 頻繁にあった

父親

母親

兄弟姉妹

その他の家族や親戚（祖父母も含む）

学校の先生

家庭教師あるいは塾や予備校の先生

先輩

友だち

結果：相談相手の記述統計（日本）

相談相手	度数	平均値	標準偏差
母親	1017	3.04	0.86
高校教師	1010	2.52	0.86
友人	1009	2.46	1.01
父親	1002	2.30	1.02
家庭教師・塾・予備校	994	1.66	1.01
先輩	999	1.53	0.82
兄弟姉妹	985	1.52	0.86
その他の家族・親戚	996	1.44	0.76

得点が高いほど、相談頻度が高い傾向にあると解釈される。日本では、「母親」との相談頻度が最も高く、唯一、項目平均値が「3」を超えた。

29

結果：相談相手の記述統計（中国）

相談相手	度数	平均値	標準偏差
友人	192	3.06	0.99
母親	192	2.92	1.05
父親	192	2.61	1.08
兄弟姉妹	192	2.41	1.14
高校教師	192	2.14	1.08
先輩	192	2.02	1.04
その他の家族・親戚	192	1.85	0.92
家庭教師・塾・予備校	192	1.71	0.97

日本調査とは対照的に、中国で相談頻度が一番高いのは「友人」であった。

30

結果：相談相手の日中比較

- 各相談相手について、それぞれ「国」「性別」「学年」を要因とする3要因分散分析を行った。その結果、全ての項目に関して2次交互作用は見られなかった。

項目	変動因	SS	DF	MS	F
父親	国	10.83	1	10.83	10.223***
	国×学年	7.20	2	3.60	3.397**
	誤差	1251.51	1181	1.06	
母親	国	6.29	1	6.29	8.216**
	性別	23.93	1	23.93	31.242***
	学年	14.36	2	7.18	9.371***
	国×性別	5.35	1	5.35	6.985**
兄弟姉妹	誤差	916.24	1196	0.77	
	国	96.93	1	96.93	119.964***
	学年	11.79	2	5.90	7.296***
	国×学年	13.94	2	6.97	8.625***
その他の家族・親戚	誤差	940.49	1164	0.81	
	国	18.37	1	18.37	30.249***
	性別	4.45	1	4.45	7.324**
	学年	5.09	2	2.54	4.188*
	誤差	713.52	1175	0.61	

31

結果：相談相手の日中比較

項目	変動因	SS	DF	MS	F
高校教師	国	42.54	1	42.54	55.797***
	学年	49.76	2	24.88	32.636***
	国×性別	3.57	1	3.57	4.687*
	国×学年	6.63	2	3.32	4.349*
	誤差	906.45	1189	0.76	
家庭教師・塾・予備校	学年	7.05	2	3.53	3.532*
	国×学年	8.89	2	4.45	4.454*
	誤差	1170.73	1173	1.00	
先輩	国	36.13	1	36.13	49.907***
	学年	7.24	2	3.62	5.002**
	国×学年	6.49	2	3.24	4.48*
	誤差	852.85	1178	0.72	
友人	国	38.69	1	38.69	39.832***
	性別	24.84	1	24.84	25.574***
	学年	20.98	2	10.49	10.801***
	性別×学年	8.87	2	4.43	4.564*
	誤差	1153.85	1188	0.97	

* $P < .05$ ** $P < .01$ *** $P < .001$

32

考察：相談相手における日中の違い

	国の主効果	国×学年 一次交互作用	国×性別 一次交互作用
母親			女子：日本＞中国
高校教師		2,3年生：日本＞中国	男女：日本＞中国
友人	中国＞日本		
父親		1,3年生：中国＞日本	
兄弟姉妹		全学年：中国＞日本	
先輩		全学年：中国＞日本	
その他の家族・親戚	中国＞日本		
家庭教師・塾・予備校		1年生：中国＞日本 3年生：日本＞中国	

33

考察：相談相手における日中の違い

- ・「高校教師」 2,3年生：日本＞中国
男女：日本＞中国

理由として考えられるのは、日本における進路指導体制の充実である。

日本では各高校の組織形態には異同があるが、基本的に、各高校には進路指導を担当する組織が校務分掌として存在するのが一般的である。

一方、中国の高校では進路指導を担当する校内組織は存在しない。

34

考察：相談相手における日中の違い

- ・「家庭教師・塾・予備校」：1年生：中国＞日本
3年生：日本＞中国

この結果には、背景として日中の高校におけるカリキュラムの違いが反映しているように思われる。

日本においては、1年生の時には、科目の勉強の他に部活動などが熱心に行われており、進学意識は希薄である。3年生になると必修科目や部活に費やす時間が少なくなり、塾に通う時間的余裕が生まれる。

中国では、逆に、3年生になると高校にいる時間が長くなるのが一般的であり、塾に通う時間的余裕は高学年になるにつれて、失われていく。

35

まとめ

- ・日本の高校生は、中国の高校生よりも早期から頻繁に大学選択のための情報収集活動を行っていることが示された。日本の高校生は**高校生活で様々な体験**をし、大学に関する情報を得て、**より早い段階**で志望する大学を決めている。
- ・日本における長年の**高大接続改革政策**が高校生の大学選択方略に影響してきたと言えるだろう。

36

今後の計画

新型コロナウイルス
感染症

教育現場

高校：臨時休業や分散登校、
学校行事や部活動の減少
大学：授業や入試広報活動
のオンライン化

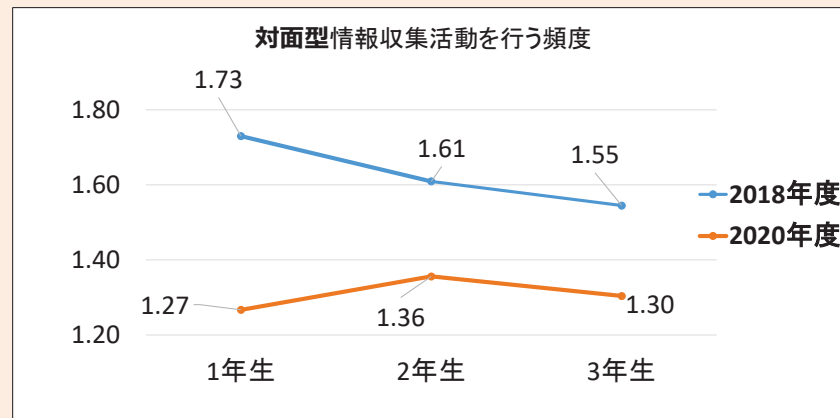
高校生の
大学選択行動

方法：本研究の質問紙にCOVID-19の影響に関する問題を加えて、2021年に調査を行った。

COVID-19前とCOVID-19禍における高校生の大学選択行動の比較分析を行い、COVID-19の流行が高校生の大学進学における進路選択に与えた影響を明らかにすることを試みる。

37

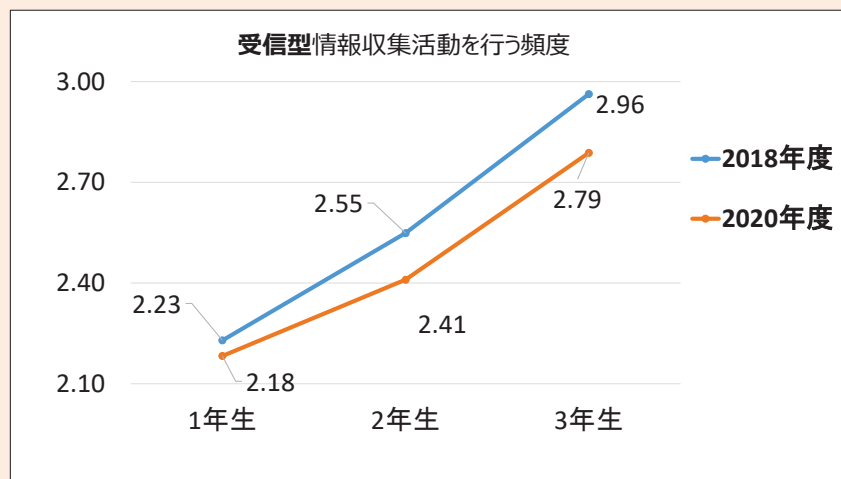
結果：対面型情報収集活動



COVID-19の影響で、高校生が大学選択をするための対面型情報収集活動を行う頻度が低くなった。

38

結果：受信型情報収集活動（日中比較）



39

考察：COVID-19の影響

「情報収集活動のパターン」

最も頻繁に「対面型情報収集」を行う学年が1年生から2年生にシフト。

「情報収集活動を行う頻度」：「2018年度」>「2020年度」

「対面型情報収集」と「受信型情報収集」の両方とも低くなった。

COVID-19の流行は、高校生の情報収集活動のパターンを変容させただけでなく、大学選択のための情報収集活動自体を抑制したと言える。

40